

FD 研修旅行：早稲田大学教職大学院との交流会

評価・FD 委員会委員長 竺沙 知章

3月1日に、早稲田大学教職大学院を訪問し、東京学芸大学教職大学院の成田教授や院生の皆さんも交えて、3教職大学院の交流会を行った。我々は、毎年、FD 研修旅行として、他の教職大学院を訪問し、その教育の実態を視察させていただくことにより、教職大学院教育のあり方を考える研修を行っている。昨年度は、東京学芸大学を訪問し、成田教授をはじめ教職員の方々にお世話になり、研修をさせていただいた。今年度は、三村教授、油布教授にお世話になり、多くの教職員の方々、そして院生の皆さんとも交流をさせていただくという研修会となった。本研究科からも院生・教員連絡協議会委員を中心とした15名の院生と共に早稲田大学教職大学院を訪問させていただいた。院生も同行させていただくことになったのは、早稲田大学からのご提案によるものであり、教員による説明だけでなく、院生の声、院生の学びに直に触れることにより、教育指導のあり方の実際を深く学ぶことができたように思う。また院生にとっても他の教職大学院の様子に触れ、院生と交流させていただくことにより、多くの刺激を得ることができ、非常によい学びの場になったと言える。

早稲田大学教職大学院を訪問させていただいた理由は、本研究科と同様に、多くの学部新卒院生が在籍している教職大学院であることから、実習指導を初め、どのような教育指導を行っておられるのか、本研究科にとって参考になる点が多いと考えたからである。また本研究科も7つの私立大学によって構成されており、私立大学における教職大学院教育のあり方も学ばせていただく機会を持ちたいという意図もあった。

多様な院生の実態に合わせて、丁寧な指導が必要であるという点で、共通の特徴、課題をもっていることが確認できたと思う。早稲田大学の教職大学院について印象に残ったことは、院生の選択に委ねられていることがかなりあり、自由度が高いということであった。そのため院生の主体性、自律性がより求められ、院生にとっては厳しさを感じるカリキュラム、指導体制になっていると思われる。本研究科の場合には、教員の出勤日が限られ、全員が顔を合わせるのが基本的に週1日であるという制約の中でのカリキュラム編成と指導になるために、一定の枠組みの中での協働性の強い指導を展開しているという特徴がある。そのことを改めて確認する機会となり、院生の主体性、自律性をどのように培っていくか、現在の枠組みの中で考えていくことが必要であると思われる。

本研究科にとっては、教員、院生とも非常によい経験をさせていただき、新たな展望を開くきっかけを得ることができたように思う。我々のFD 研修旅行を快く受け入れていただき、参加者が50名を優に超えるような盛況で活気のある交流会を企画してくださった早稲田大学の三村教授、油布教授を初めとした教職員、院生の方々、そして昨年度に引き続き我々との交流に駆けつけてくださった東京学芸大学の成田教授、院生の皆さんに心より御礼を申し上げたい。